

令和7年度 第1回 周南市地域づくり推進協議会 会議録

1. 日 時 令和8年2月20日（金） 16時00分～17時10分
2. 場 所 周南市徳山保健センター 1階 健診ホール
3. 出席者 内山 浩昭 委員、小林 和子 委員、坂根 美音 委員、佐藤 幸宏 委員、
末田真由美 委員、難波 利光 委員、沼田 早紀 委員、藤本 賢司 委員、
船崎美智子 委員、渡辺 明彦 委員
（計10名）
3. 欠席者 岡部 由加 委員、竹内 裕光 委員、竹尾 真実 委員、
藤井 蔵吉 委員、吉地 宏明 委員
（計5名）
4. 事務局 上野、福田、磯部、檜部、柴田
5. 傍聴者 なし
6. 会議内容

開 会 事務局により司会進行

- 市民憲章唱和
- あいさつ 地域振興部長
- 委員・事務局紹介

議 事

発言者	発言内容
会 長	これより議事に入る。 それでは次第に沿って進める。 はじめに、議事の（1）第2次周南市地域づくり推進計画実施状況（令和6年度実績）について、事務局より説明をお願いします。
事務局	（別紙資料1をもとに説明）
会 長	事務局からの説明に対し、何か不明な点や質問はないか。
委 員	（発言なし）
会 長	次に、議事の（2）地域づくりの推進に向けての意見交換について、今後さらなる地域づくりの推進に向けて、委員から地域づくりに関する情報提供などがあれば拳手をお願いします。

発言者	発言内容
委員	周南市とNPO法人の協働により福祉を切り口とした「だれにもやさしいまち」を目指したイベントが開催される。関係者への周知についてご協力いただきたい。
委員	周南市出身の彫刻家が彫刻を通じたまちづくりに取り組んでいる。是非会場に足を運んでいただきたい。
委員	周南市の産業特性として、重化学工業が挙げられる。こうした工場で働いている従業員が身近な地域づくり活動に関わりがあるか研究を行っている。 商業を中心としたまちと工業を中心としたまちの住民の地域づくりへの関わり方にどのような違いがあるのか？産業構造の違いによってアプローチが変わってくるのではないかと考えている。 各委員の所属する団体での状況について教えていただきたい。
委員	地域づくりに関りが無い方に対し、どのような活動が行われているか知っていただくことが必要。誰もが必要になる「災害時の対応」を切り口に、行政と地域、企業が一緒になって協働できる仕組みづくりを考えていけたらよい。
委員	長野県佐久市の産業構造は福祉関係が中心である。こうした背景から福祉系のプロボノがその知識とスキルを活かして地域づくりに関わっている。 それぞれの地域の産業構造に応じたプロボノが地域づくりに関わる仕組みをいかに生み出していくかが問われる。
会長	他に意見はないか。
委員	(意見なし)
会長	次に、議事の(3) その他 について、本日の会議全体を通しての意見や委員の皆さまの近況等、ひとりずつ発言をいただき、本日の会議を終了したいと思う。
委員	居住する地域で防災を視点に消防団と連携した活動を展開している。
委員	自身も市の様々な審議会や協議会の委員として携わってきた。地域には様々な特技を持っているがそうしたスキルを発揮できる場がない方が多くいる。そうした方に活躍できる場を提供していきたい。
委員	高校生を対象としたボランティア養成講座では多くの参加があった。講座の内容によっては興味を持って参加して下さる方がたくさんいる。担い手不足でネガティブになりがちだが、未来に向けて明るい材料もある。参加者と地域をいかにつなげていくかが重要である。
委員	年代に応じてアナログな世界とデジタルの活用の住み分けが大事。 プロボノや地域の中の特技を持った方々の活動と自治会をつなげていく必要がある。
委員	防災に関しては地域の関心度が高い。 地域でマッチングイベントを開催したが大変盛り上がった。 自身も学校の育友会を契機に地域づくり活動に関わるようになったが、コロナ禍を境にPTA や育友会の活動が下火になっている、担い手の確保に向けての入り口として有効であることから活動を活性化していきたい。

委員	<p>地域と子どもたちのつながりはあるが、ドーナツ化現象のように親世代とのつながりが空洞化している。</p> <p>地域活動をする上で、自身のつながりで声掛けを行い、これまではそのメンバーで事業運営が賄えていたため新たな声掛けを行ってこなかった。しかし現在のメンバーが歳を重ねる中で疲弊してきている。新たなつながりをつくるためにも情報発信が重要である。</p>
委員	<p>地域活動に関わる中で JC のメンバーが多く活動していると感じた。</p> <p>周南公立大学の学生で、周南市出身ではないが地域活動に関わる中で、周南市に魅力を感じて、卒業後は周南市に就職を決めたという学生がいて感動した。</p>
委員	<p>50歳代までと年齢制限を設けた若者向けの交流会（勉強会）を実施している。</p> <p>自身の地域では自主防災活動に力を入れており、クラウドファンディングで蓄電池を備えた防災倉庫を設置した。また、消防団や支所・市民センター職員のアマチュア無線の免許取得に向けた補助を行い、有事の際に備えている。</p>
会長	<p>委員それぞれの取り組みが非常に勉強になった。</p> <p>それぞれの委員が地域づくりに関わる人たちを誘い込み、そこを起点にまた新たな関りを生むことで地域づくりの輪が大きくなっていくことを期待する。</p> <p>以上を持って本日の議事を終了し、会議の進行を事務局へ返す。</p>

閉 会

- 事務局からの諸連絡
- あいさつ 地域づくり推進課長